

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立北大路中学校 2025年10月



■教育目標

豊かな知性と情操を備え、心身ともに健康で「自主力行」に励む生徒の育成

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し

○調査目的

教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

結果について

《教科の強み・弱み》

教科ごとの分析から、国語・数学・理科それぞれにおいて、学力の特徴や課題が明らかになりました。

国語では、「読むこと」の分野で正答率が比較的高く、生徒の読解力や語彙力がしっかりと身についていることがうかがえます。一方で、「書くこと」や記述式の問題では全国平均を下回っており、自分の考えを筋道立てて書いたり、理由を明確に示したりする力をさらに育てる必要があります。

数学では、「データの活用」の分野で安定した成果が見られましたが、「図形」や「関数」の分野では全国平均を下回っており、空間のイメージや関係性の理解に課題があります。また、記述式の問題では、自分の考えを説明する力や、考えを言葉にする力が十分ではなく、思考力・判断力・表現力の向上をする必要があります。

理科では、選択式の問題で高い正答率が示されており、基本的な知識はよく身についています。しかし、記述式や探究的な問題では全国平均を下回る傾向があり、仮説を立てる力、実験の計画を立てる力、結果を振り返る力などを高める必要があります。特に「地球」や「粒子」の分野では、モデルを使って考える力や構造を理解する力に課題があります。

《質問紙》

生徒への質問結果から、生活習慣や学習意欲、ICTの活用、自己認識、学校生活について、さまざまな傾向が見えてきました。

生活習慣では、朝食をとる割合や起床時間は全国平均と同じくらいですが、寝る時間の規則性には少し課題があります。生活リズムの乱れは集中力や学習意欲に影響するため、生徒の生活習慣の改善が必要です。

自己認識では、自分を肯定的にとらえる気持ちは全国平均と同程度ですが、先生から認められていると感じる生徒の割合がやや低く、信頼関係の構築が課題です。友人関係には満足している生徒がとても多く、安心できる人間関係が学校生活の安定につながっています。

学習意欲については、平日の家庭学習の時間は全国平均より長く、意欲の高さがうかがえますが、休日は短めです。ICT機器の活用はやや低く、授業での活用方法を工夫する必要があります。

学校生活では、「学校が楽しい」と感じている生徒の割合がやや低いので、学校への親しみや安心感を高める取り組みが必要です。「人の役に立ちたい」と思う気持ちが強く、他者への思いやりの心がみられます。

指導の充実に向けて

■ 国語の改善策

- ・説明文や意見文を書く活動を日常的に取り入れ、文章構成の基本を指導します。
- ・書いた文章をペアやグループで読み合い、根拠の明確さや論理性について話し合う機会を設けます。
- ・教材や課題に「なぜそう思うか」を問う設問を増やし、理由を言語化する練習を積み重ねます。

■ 数学の改善策

- ・図形や関数の単元では、具体的な操作（折る・描く・動かす）を通じて空間認識を高めます。
- ・問題解決の過程を言葉で説明する活動（ペアでの口頭説明や記述練習）を取り入れます。
- ・授業中に「なぜそのように考えたか」を問う場面を増やし、思考を言語化する習慣を育てます。

■ 理科の改善策

- ・探究活動の流れ（問い合わせ→仮説→実験→考察）を意識した授業構成にし、各段階での記述を丁寧に指導します。
- ・実験前に「なぜこの方法を選ぶのか」「どんな結果が予想されるか」を話し合う時間を設けます。
- ・地球や粒子の分野では、図やモデルを活用した視覚的な説明を取り入れ、構造理解を促します。

■ 生活習慣や学校生活における改善策

- ・家庭との連携強化：学校と家庭で協力し生徒の学校や家庭での様子を共有し、生徒の生活改善を進めます。
- ・生徒指導の充実：普段の学校生活での教員と生徒の関わりを増やし、生徒が毎日充実した学校生活を送れるようしていきます。